

岡病防第4号  
平成28年4月28日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長  
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第2号を下記のとおり発表したの送付します。

平成28年度病虫害発生予報第2号

平成28年4月28日  
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	作物名	病虫害名	発生時期	発生量	
水稲	苗立枯れ(もみ枯細菌病による苗腐敗)	—	並	モモ	ナシヒメシクイ カメムシ類	やや早 並	やや多 並	
	ヒメトビウンカ	—	少		ブドウ	灰色かび病 べと病	やや早 やや早	やや多 やや多
	縞葉枯病	—	やや少	キュウリ等		灰色かび病	—	やや多
	ツマグロヨコバイ	—	少			イチゴ	うどんこ病	—
	萎縮病	—	並	タマネギ	べと病	—	多	
イネミズゾウムシ	やや早	並	ナス等	ミナミキイロアザ ミウマ	—	並		
麦類	アブラムシ類	—	やや少	アブラナ科 野菜	アブラムシ類	—	やや多	
	ヤノハモグリバエ	—	やや多		キク	アブラムシ類	—	やや多
ジャガイモ	疫病	やや早	やや多	モモ	灰星病	—	やや多	
モモ	黒星病	やや早	やや多	せん孔細菌病	やや早	やや多	やや多	
	褐さび病	やや早	並	モモハモグリガ	やや遅	やや少	やや少	
	ウメシロカイガラムシ	早	並					

## 1. 普通作物

### (水 稲)

#### (1) 苗立枯れ (もみ枯細菌病による苗腐敗)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 昨年のもみ枯細菌病の発生は平年よりやや少であったことから、種籾の伝染源量は平年よりやや少ないと考えられる。

イ. 4月21日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、発病を助長する条件である。

#### (2) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ(第1世代幼虫) 少  
縞葉枯病 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月中旬までのすくい取り虫数は1頭で平年(92.7頭)より少なかった。

#### (3) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ(第1世代幼虫) 少  
萎縮病 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月中旬までのすくい取り虫数は0頭で平年(27.8頭)より少なかった。

イ. 萎縮病は近年ほとんど発生が認められない。

#### (4) イネミズゾウムシ

予報内容

発生時期 やや早 発生量 並

予報の根拠

ア. 4月21日の季節予報(1か月予報)によると、気温は高いとされており、越冬後成虫の本田への飛込み時期は平年よりやや早いと考えられる。

イ. 近年、本田での発生密度は減少～横ばい傾向にある。

### (麦 類)

#### (1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月22日の巡回調査によると、発生圃場率は52.2%で平年(78.3%)よりやや低かった。

イ. 4月21日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

#### (2) ヤノハモグリバエ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月22日の巡回調査によると、発生圃場率は34.8%で平年(17.8%)よりやや高かったが、発生程度は軽微であった。

イ. 4月21日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期                    **やや早**                    発生量                    **やや多**

予報の根拠

ア. ジャガイモの生育は平年よりやや早めに推移している。

イ. 4月21日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、発病を助長する条件である。

2. 果 樹

(モモ)

(1) 灰星病

予報内容

発生量                    **やや多**

予報の根拠

ア. 4月21日の巡回調査(南部)では、花腐れの発生圃場率は64.3%で平年(14.9%)より高かった。

イ. 4月21日の季節予報(1か月予報)によると、降水量は平年より多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期                    **やや早**                    発生量                    **やや多**

予報の根拠

ア. モモの生育はやや早めに推移している。

イ. 4月21日の巡回調査(越冬病斑調査)では、発生量は平年並であった。

ウ. 4月21日の季節予報(1か月予報)によると、降水量は平年より多いとされており、発病を助長する条件である。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生時期                    **やや早**                    発生量                    **やや多**

予報の根拠

ア. モモの生育はやや早めに推移している。

イ. 前年の発生量が多かったことから、伝染源の越冬量も平年より多いと考えられる。

ウ. 4月21日の季節予報(1か月予報)によると、降水量は平年より多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(4) 褐さび病

予報内容

発生時期                    **やや早**                    発生量                    並

予報の根拠

ア. モモの生育はやや早めに推移している。

イ. 前年の発生量が平年並であり、伝染源の越冬量は平年並と考えられる。

(5) モモハモグリガ(第1世代成虫)

予報内容

発生時期                    やや遅                    発生量                    やや少

予報の根拠

ア. 4月21日の巡回調査(南部)では、発生圃場率は0%で平年(5.7%)より低かった。

イ. 県予察圃場のフェロモントラップによると、4月1～5半旬までの誘殺数は0頭で、平年(8.8頭)より少なかった。

ウ. 4月21日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(6) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生時期                    **早**                    発生量                    **並**

予報の根拠

ア. 越冬世代成虫の50%抱卵日は4月10日と推定され、平年（4月20日）より早かった。なお、予測式から防除適期（幼虫ふ化最盛日）は5月1日頃と予測される。

イ. 越冬雌成虫の生存率は82.0%で平年（89.7%）並であった。

(7) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生時期                    **やや早**                    発生量                    **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、誘殺最盛日は4月4日であり、平年（4月9日）よりやや早かった。

イ. 4月1～5半旬の誘殺数は54頭で平年（23.6頭）よりやや多かった。

(8) カメムシ類

予報内容

発生時期                    **並**                    発生量                    **並**

予報の根拠

ア. 前年2月～5月のスギ・ヒノキの花粉飛散数を利用した予測式によると、本年4～7月の予察灯（赤磐市）への飛来予測数は、チャバネアオカメムシは476.6頭（平年371.7頭）で平年並、クサギカメムシは28.2頭（平年14.8頭）で平年よりやや多いと予測される。

イ. 4月21日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(ブドウ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生時期                    **やや早**                    発生量                    **やや多**

予報の根拠

ア. ブドウの生育はやや早めに推移している。

イ. 4月21日の季節予報（1か月予報）によると、降水量は平年より多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(2) ベと病

予報内容

発生時期                    **やや早**                    発生量                    **やや多**

予報の根拠

ア. ブドウの生育はやや早めに推移している。

イ. 4月21日の季節予報（1か月予報）によると、降水量は平年より多いとされており、発病をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. ブドウベと病に登録のあるストロビルリン系及び作用点が同一の殺菌剤（アゾキシストロビン剤、クレソキシムメチル剤、ファモキサドン剤）に対して感受性が低下した耐性菌が本県の一部で確認されている。本系統の殺菌剤の使用は1作期1回とし、他系統の殺菌剤とできるだけ組み合わせる。

イ. ベと病菌は被害葉で越冬し、翌年5月以降、降雨時に葉裏の気孔から

侵入して5月下旬頃から葉に発病することから、前年の被害葉は圃場外に持ち出して処分し、伝染源の除去に努める。

### 3. 野菜

#### (キュウリ、ナス、トマト、イチゴ)

##### (1) 灰色かび病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 4月21、25日の巡回調査によると、発生圃場率はトマトでは80.0%、イチゴでは33.3%といずれも平年(トマト:50.3%、イチゴ:20.2%)より高かった。ナス及びキュウリでは発生を認めず、ナスでは平年(25.6%)より低く、キュウリでは平年(0%)並であった。

イ. 4月21日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、発病を助長する条件である。

##### (イチゴ)

##### (1) うどんこ病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 4月21、25日の巡回調査によると、発生圃場率は22.2%で平年(12.3%)よりやや高かった。

イ. 4月21日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、発病をやや助長する条件である。

##### (タマネギ)

##### (1) ベと病

予報内容

発生量 **多**

予報の根拠

ア. 4月21、25日の巡回調査によると、発生圃場率は100%で平年(46.2%)より高かった。

イ. 4月21日の季節予報(1か月予報)によると、降水量は平年より多いとされており、発病を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 気温15℃前後で雨が多いと多発生しやすい。

イ. 発病を確認した圃場では定期的に葉によく付着するように薬剤散布を行う。薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ウ. 植物防疫情報第1号(4月7日発表)「タマネギベと病の防除を徹底してください」参照。

##### (ナス、キュウリ)

##### (1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 4月21、25日の巡回調査によると、キュウリ、ナスでの発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 4月21日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高いとされており、発生を助長する条件である。

## (アブラナ科野菜)

### (1) アブラムシ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

- ア. 赤磐市における4月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は381頭で、平年(202.6頭)より多かった。
- イ. 4月21、25日の巡回調査によると、発生圃場率はダイコンで0%(平年:5.0%)、ハクサイで50.0%(平年:40.0%)といずれも平年並であった。
- ウ. 4月21日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

### (2) コナガ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

- ア. 赤磐市における4月1～5半旬のフェロモントラップの誘殺数は58頭で、平年(13.1頭)よりやや多かった。
- イ. 4月21、25日の巡回調査によると、ダイコン、ハクサイでの発生圃場率は14.3%で平年(6.5%)よりやや高かった。
- ウ. 4月21日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

## 4. 花き類

### (キク)

#### (1) アブラムシ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

- ア. 赤磐市における4月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は381頭で、平年(202.6頭)より多かった。
- イ. 4月21日の巡回調査によると、発生は平年並にみられるものの程度は軽微であった。
- ウ. 4月21日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239) です。